

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100582		
法人名	有限会社 ナオエ		
事業所名	グループホームしのぶ園		
所在地	佐賀県佐賀市本庄町大字袋326-20		
自己評価作成日	平成26年2月3日	評価結果市町村受理日	平成26年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街でありながら、スーパー、ディスカウントストア、薬局、飲食店が多く立ち並び、買い物、軽食、デザート等と楽しめる環境。24時間対応往診して下さるドクター、訪問看護ステーションとの連携で、家族の安心を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より11年目を迎える民家改修型のグループホームである。日頃より散歩や買物に出掛けたり、ホーム行事の広報や地域行事への参加など近隣との交流は深い。また、時々、ホーム周辺の飲食店や書店等の利用を通じた付き合いもなされている。防災面に関して、飲料水、非常食、おむつ等の備え、普段の消防、避難訓練のほか、地域の消防団の協力のもと、ホームから小学校まで避難誘導の訓練を実施するなど力を入れている。医療・生活面では、訪問診療、往診、訪問看護などの支援体制、勤続年数の長い職員の在籍など、入居者や家族に安心を得られるよう環境を整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「笑顔・ゆったり・楽しく」家庭のように、過ごしてもらう介護に努めている。職員は、ミーティングや送り出しの際に唱和している。ホールにも掲示して誰もが目につくようにしている。	職員全員で決めた開設当初からの理念を日々唱和し、入居者と一緒に過ごす時間を大切にしたいという思いで業務に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り、清掃活動にも参加している。散歩の時にも挨拶を交わしている。園の行事案内チラシを、入居者と一緒に配布し、交流を深めている。	保育園、地域の行事などに参加されている。また、日頃より散歩、買物、時には近所に食事に出掛けるなど、地域との交流の機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、民生委員、近隣の方々、特に高齢の方々に参加して頂き、入居者の一日の過ごし方を理会してもらっている。在宅介護の相談等にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に民生委員、近隣の方々、家族の方々に参加して頂き、認知症のケースを取り上げ意見交換している。避難訓練にも参加して頂き、避難口、避難経路の確認をしてもらっている。	会議は2ヶ月に1回開催されている。ホームでのサービス実施状況や行事の報告、意見交換が行われている。昨年、地域の消防団に協力を得て、避難場所への移動を含めた訓練の実施が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	佐賀市主催の集団指導に参加している。市町村の担当者に相談、アドバイスを受けている。佐賀市の安心サポートを利用される入居者もおられる。7月、本庄消防団に避難訓練を行ってもらった。	地域包括支援センターや介護保険の保険者、市の福祉課や社会福祉協議会など必要に応じて連絡、相談が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有する為の会議を通じて、話し合いを行っている。施錠について、夜間に限りセンサーを作動させ、園からの出入りに注意をしている。	安全ベルトの使用に頼らず、見守りを増やす支援で、身体拘束をしないケアに取り組まれている。玄関などの出入口の施錠に関しては、安全面に配慮し、夜間のみセンサーを使用されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会にも、随時スタッフが参加している。ミーティングの際にも取り上げて学習を重ねている。言葉の暴力についても検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	多くの職員が、外部の研修会に参加している。色々な研修会で学んだことを職員へ伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に必ず、重要事項説明書、その他の事項を元に説明を行っている。その都度、質問にお答えし、納得された上で署名、捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を準備対応している。御家族の面会時、またケアプラン説明時等に、意見を頂き、何でも話して頂けるように対応している。	家族へは普段より手紙や電話での連絡や運営推進会議や面会時に声をかけるなど情報交換を適宜行い、意向の確認を行うようにされている。また、申し出があった意見は、ホームで対応を協議し、対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で管理者は、職員とのミーティング、日々の申し送り時に、意見の交換を常に行い、早期解決改善に努めている。	月に1回のミーティングが行われている。また、個別と全体の2種類の申し送りノートを活用し、入居者や業務上の気づきの記入と、それらの情報共有を行い、スムーズに業務が遂行できるように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営運営会議で、個人の勤務形態を把握している。外部研修へも積極的に参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の全員が、外部研修を受けられるように取り組んでいる。様々な資格取得に努力している職員もいる。他の職員にも情報提供する為、発表の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との、定期勉強会の呼び掛けには、ほぼ全員の職員の参加で交流を行っている。他事業所の見学等も行い、お互いを高める努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人にお会いして、本人のこれまでの人生、好きな事、嫌いな事、家族の意見、考え等を確認している。環境に慣れられるまでは、細かい言葉掛け、心配りを行い、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談に至るまでの背景、生活歴、家族の願い、悩み等を確認、本人の要望に耳を傾け、安心が得られるようにしている。職員が、他入居者との自然な関係作りが出来るように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族が見学に来られ、何を必要としているのか、どういう支援が必要か見極めている。初期段階で何が必要か、職員、ケアマネが常に意見交換し、ケアの実践に生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重し、共に生活する中で気付きの部分を大切にしながら、本人の意思に沿うようなケアに努めている。入居者の長い人生経験から、教えて頂くことも多く、より良い形で支えあう関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭であるグループホームに、家族が集うのは当然と考え、行事の時は勿論、普段から頻繁に訪問面会に来てもらい、意見要望を遠慮なく伝えてもらうように呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、友人、知人の訪問を数多くしてもらうように呼びかけている。ドライブで自宅の周辺まで、御連れすることもある。	家族の了解のもと、友人や知人の訪問をお願いされている。また、自宅周辺までのドライブ、ホーム周辺の散歩など、馴染みと地域の繋がりを大切にされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファや、椅子の座る位置などを考慮し、入居者が誰とでも、話ができるように努めている。また、職員が仲介役となり、話もわが繋がるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩し入院、退所された方、また他施設に入所された方の、面会へお連れしたり、家族の方から、その後の様子を伺ったりしている。相談等には、いつでも対応して支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし方、好み、生活習慣、希望等を確認するようにしている。家族の意向を取り入れながら、毎日の会話、生活の様子をみて、希望に添えるよう努めている。	日々の関わりや会話の中で、意向や希望の確認をされている。また、適宜、家族へ連絡を取り合いながら、本人に関する情報を得るようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を、本人、家族、ケアマネジャーに確認して、馴染んだ暮らし方や、これまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活リズムや、過ごし方を大切にして、本人のしたい事、出来ることを確認し、不安に感じている事などを統合的に把握して、支援するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基に提供し、記録を残す。御家族の意見と日常生活状況を踏まえたモニタリングを行っている。ミーティングにおいても、ケアプランを見直す機会を設け、職員の意見も反映するよう努めている。	日々の関わりや家族と連絡を取り合う中で、意見や意向の把握を行いつつ、モニタリングや定期的なミーティングを通して、ケアプランの作成や見直しを検討されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌や、食事、排泄、飲水等も個別に記録し、送りノートにも本人の行動、職員の気づきを記録し、全職員が目を通し、情報共有している。ミーティングにおいてもケアプラン等についての話し合い見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行い、いつも「その人らしさ」を、大切に活かすような支援をしている。誕生会、ボランティアの来園時に、家族の出席をお願いしている。毎月、それぞれの家族様へお手紙で状況を知らせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	静かな住宅街に位置しているが、近隣には、スーパー、ディスカウントストア等が多く、一緒に買い物に出掛けている。近隣のデイサービス、保育園の行事、地域の行事にも参加し楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を大切にしている。了解を得た利用者に至っては、園の協力医療機関への変更、定期の往診を受けて頂いている。急変時、夜間も往診にきて頂けるので本人、家族の方の安心を得ている。必要に応じて、スタッフ付添、かかりつけの病院へ受診にも行っている。	定期的な訪問診療や、急な往診などホームの協力医療機関より行われてる。その他、家族の希望や必要に応じて、職員付添いでの受診も行われている。診療の内容はその都度、報告をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護センターと連携、提携しており、1週間に1度、訪問して頂き、日常の健康管理をお願いしている。入居者の異常を感じた場合、こまめに主治医、看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行い、不明な点は、いつでも連絡して頂くようにしている。しばしば面会をして状態観察をすると共に、病院サイドと情報交換を行う。退院時の必要なケアの把握をして、スムーズに戻って来られるよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居されたときに家族に説明行っている。本人の意向や家族、職員、主治医、看護師と話し合い、最後まで、その人らしさを大切にすることを方針に盛り込んでいる。	重度化や終末期に関する指針を作成され、入居時に説明されている。また、重度化や終末期を迎える場合には、改めて、指針を踏まえ、主治医話し合い、意向を共有している。職員もミーティングを重ね、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を浴室、ホールに掲示している。救命救急講習を受講している。誤嚥した入居者に役に立った経緯がある。ドクターを招いての救命講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。定期に、夜間の火災を想定した訓練を実施している。災害時の避難場所、そこに行くまでの安全な経路、時間も把握している。災害断水時の飲料水、非常食、おむつ等、避難時に着用するレインコートも常備している。	定期的に昼夜を想定した避難や通報、消防訓練をされている。避難の経路、場所、時間の把握、非常時の飲食、介護等の物品など災害に備えている。また、近隣や消防団の協力もあり、一緒に避難訓練を行ったり、意見や提案をもらう関係にある。	今後は、避難にあたり、入居者の身体の動きや状態の把握ができるなど、応援に駆けつけた方の対応が、よりスムーズに行えるような、具体的な対策作りに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を維持すること徹底し、丁寧な言葉遣いの接し方をしている。個人情報の取り扱いには、十分注意をしている。	親しく接しながらも、丁寧な言葉遣いに努められている。また、羞恥心に配慮した言葉かけ、介助をされている。個人情報の持ち出しを禁止し事務所で管理するなど慎重に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた言葉掛けを行っている。言葉での表現が困難であっても、日常生活の中で、注意深い観察を行い、本人の意思を汲み取るようにしている。自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしく過ごせるようにしている。 起床や食事を遅らせる利用者もおられ、その日のペースを大事にしてもらう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容室が来られる。利用者の好みに添うよう対応している。 マニキュアを希望される方もおられ、職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなメニューを伺い取り入れ、買い物にも一緒に行ったりしている。 誕生日や、イベント時のケーキ作りは、利用者の方々に、簡単なトッピングをお願いして楽しんで頂いている。	買物や食事の下準備、後片付けなど可能な範囲で、入居者をお願いしている。また、献立は入居者の好みを聞いて立てたり、おせち料理は手作りで作られるなど、家庭的で温かみのある食事作りを行われている。ホーム周辺の飲食店にも、外食に出掛けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取のチェック表用いての把握をしている。 食事以外、水分補給の為のお茶摂取も、午前中のお茶の時間は、カルシウム補給の意味も含め、牛乳を飲んで頂いている。 体調や、身体状況により、食事形態、食事量の増減の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施している。 定期的な歯科医の訪問による受診を受けられ、必要に応じて治療をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人一人の排泄パターンに応じた支援をしている。尿意、便意のある方は、その都度、トイレに誘導している。排泄後の処理が出来られない方に関しては、職員が支援している。	一人ひとりの排泄リズムの把握に努め、誘導するなど、トイレでの排泄を支援されている。また、身体の動きや排泄の一連の行為がうまく行えない場合には、職員が声かけを行い、見守り、介助等の支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後の3回、午前、午後1回、150～180mlのお茶や牛乳等を、水分摂取として飲んで頂いている。個人別の排泄パターンを把握し、習慣的な排泄を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後はゆっくり過ごしたいとの希望が多かった為、入浴は午前中に行っている。体調、状態に合わせてシャワー浴、清拭を行っている。入浴の順番が同じにならないよう、チェック表を用いて公平になるようにしている。	週3回、入浴が行われている。また、入居者の希望や体調、身体の状態に応じて、適宜、入浴の支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中、レクリエーション行い、午後は散歩、買い物に行き、日中の活動時間を多くしている。午睡を希望される方は、自室で休んで頂いたり希望に添うように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に服薬内容の説明書を綴じている。薬の管理も、当日服薬分、服薬後の空袋も利用者名別に分け、誤薬防止に繋げている。処方された薬を、チェック表も用いて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付け、植木、花壇の水やり、洗濯物たたんだり、利用者が出来る範囲での役割を果たしてもらっている。カラオケが好きで、いつも楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は必ず散歩に、御連れしている。季節毎の、桜、つつじ、向日葵、コスモス、紅葉、彼岸花の見物を楽しまれている。大衆演劇の講演会は、毎年大きな楽しみとなっている。	入居者の希望や状況に応じて、散歩や買物、外食など、日頃より戸外に出掛ける支援をされている。また、花見など季節に応じた外出や地域の催し物への参加などの支援もされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が十分でない方が多い為、買い物に行って、希望される品物がある時は、職員がお金を渡して、直接買って頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望まれた時に、いつでも電話をしてよいか、家族に確認をしている。望まれるときは、職員が電話をかけ本人に代わって話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは、ソファですごして頂き、対面キッチンからは、食事の匂いがして、家庭にいるようである。	住宅改修の建物で、手の届く程の距離の対面キッチンを見れば、食事を支度する姿をうかがえるなど、家庭的な空間となっている。ホールのソファ、テーブルなど入居者がそれぞれ落ち着ける場所で過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファが2つ、テーブル、椅子があり、気に入った場所、馴染まれた場所で隣同士、おしゃべり。テレビを見たり、ゆったり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒、仏壇を持ち込んでおられる。時計、家族の写真、ぬいぐるみ等飾られ居心地よく過ごされるようにしている。	居室には、家族の写真や仏壇などが持ち込まれ、それぞれの好みの場所に置かれている。知人や友人などの来訪者と一緒に過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の前に名札を貼って、目印にしている。トイレも「便所」と書き分かりやすくしている。ホールの壁に時計、カレンダーを掲示している。浴室は滑らないマットを床全体に敷いて安全に配慮している。		